

1. 由来

鎌倉時代（嘉暦元年：1326年）に創建された日蓮宗の寺院。松本坊日念上人により開山されたと云われている

2. 千葉師範学校発祥の地

明治5年9月の学制発布のころ、流山は印旛県の県庁所在地だった。官員が月給の一部を献金して、明治5年9月23日に開設した学校が、流山村常与寺の「印旛官員共立学舎」である。共立学舎は、現在の千葉大学教育学部の前身といえる。

3. 伝習員

小学校教員になろうとする人々（伝習員）は、ここで教授の内容・方法を習得した。講習日数は60日間だった。

4. 伝習員の先生

印旛県の県庁職員が伝習員に教えた。

5. 付属小学校

伝習員が実地訓練できるように付属小学校が併設された。これが現在の流山小学校である。

6. その他

- (1) 葛飾県は流山に明治2年1月13日に成立。宮谷（みやざく）県は大網白里に明治2年2月9日に成立
- (2) 県立図書館 S56刊行「小学校変遷一覧」

流山小学校（流山市）	明治5年9月23日
新町小学校（佐倉市）	明治5年11月1日
船橋小学校（船橋市）	明治5年11月18日
- (3) 学制発布

明治5年9月4日に太政官より発された、日本最初の近代的学校制度を定めた教育法令。
フランスの学制にならって、全国を8の大学区に分け8大学校の、1大学区を32中学区にわけ256中学校の、1中学区を210小学区にわけ53760小学校を置くことを定めた。

常与寺縁起

以下は流山市史研究3号『近世流山村の成立について』松下邦夫氏の研究論文からの抜粋

『下総国葛飾郡風早荘流山邑梅本山常与寺記』 元禄2年（1689年） 常与寺住職 日悟
 「高祖三世の孫日念の開基で、始め流山邑の馬場の地に^{いぼら}荊を刈り、^{かや ゆっ}茅を縛て一字を創したのに始まる。その後、この草庵は継ぐ者がなく朽ち落ちてしまい、二百余年を経た天文24年（1555年）に日信が梅本坊を再建し、釈迦四天王大聖の像を安じた。そして真間山弘法寺末に列した・・・」

注）本土寺過去帳に「梅本坊 文安4（1447年）ヒレガサキ」の記述あり

注）真間山弘法寺（まますんぐほうじ）市川市真間4-9-1

「梅本坊はその後、45年を経た慶長5年（1600年）に陸州の動乱を^{おそれ}懼て篠籠田に移り、さらには根戸に移った。」

注）柏市篠籠田の法華蘭塔、我孫子市根戸の法華坊

「日信には八木郷生まれの日遊という弟子があり、彼は一尊四士の本尊を西平井の本覚寺に預けて久しく修行を重ね、その後に流山邑の長である須藤常蓮の合力を得て、寛永13年（1636年）堂を現在地に建立し、翌年、梅本山常与寺の山号と寺号を本山から受領、開山した。」

注) 一尊四士：釈迦如来と四菩薩像

「常与寺の寺号は、再興に大きな功績のあった須藤常蓮とその妻妙與の法名の各一字をとって付けられたものである。」 注) 法名は常蓮院日應と妙與日了

嘉暦元年（1326年）日念が梅本坊を開山 流山邑馬場＝ヒレガサキ ？

本妙寺（後平井）開山 1324年

本覚寺（西平井）開山 1334年

天文24年（1555年）日信が梅本坊の草庵を再建

慶長5年（1600年）草庵を篠籠田に移す

？ 年（？ 年）草庵を根戸に移す

寛永14年（1637年）日遊が須藤氏の助力を得て常与寺を開山



常与寺墓地にある須藤家墓石

→ 妙法 常蓮院日應 霊位

→ 妙法 妙與日了 霊位

流山の六軒百姓

「流山六軒百姓」の伝承によると、次の6軒が江戸初期に流山の田畑を開墾し、今日の礎を築いた草分けといわれる。

- | | | | | |
|----|-----|---------|-------|-----------------|
| 1. | 平井家 | 広徳寺（金杉） | 閻魔堂墓地 | 茶豆蘭 |
| 2. | 平井家 | 広徳寺（金杉） | 閻魔堂墓地 | |
| 3. | 寺田家 | 光明院 | 閻魔堂墓地 | 寺田園茶舗（万華鏡ギャラリー） |
| 4. | 須藤家 | 常与寺 | 常与寺墓地 | 根郷の地主で常与寺再建 |
| 5. | 石川家 | 常与寺 | 常与寺墓地 | |
| 6. | 某 | | | 明治の頃埼玉へ、その後消息不明 |

以上